シャングリラ足助 2011

平成23年3月12日（土）
午後1時30分～4時30分

足　助　交　流　館

プログラム

13:30　オープニング

13:55　地域づくり懇談会

14:55　地域力アップの足跡

16:20　エンディング

主催　／　足助地域会議・足助地区コミュニティ会議・足助地区区長会・豊田市足助支所

《　目　　次　》

1.　**オープニング** ・・・

1. オープニング　13:30～

足助中学校ブラスバンド部

演奏曲目「Peach」
「小さな恋の歌」

豊田市民の誓い

わたくしたちは、七州をのぞむ美しい山河にかこまれ、
輝かしい衣の里の歴史と伝統をうけつぎながら、
明日に向かって伸びゆく豊田市の市民です。

1　緑をはぐくみ、川を大切にして、豊かな自然を愛しましょう。
1　スポーツに親しみ、教養を高めて、文化の向上につとめましょう。
1　元気で働き、若い力をそだてて、幸せな家庭をつくりましょう。
1　互いに助けあい、心の輪をひろげて、あたたかい町をつくりましょう。
1　いのちを尊び、きまりを守って、住みよい社会をつくりましょう。

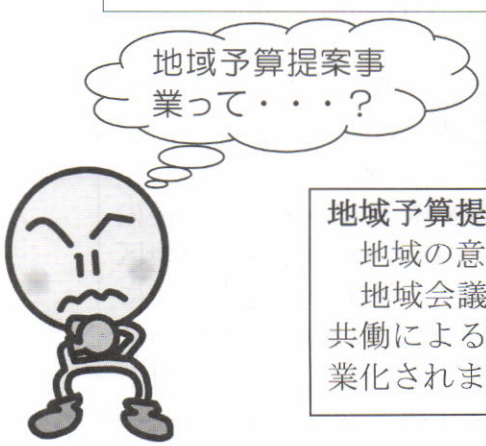
（昭和５３年３月１日制定）

地域会議委員紹介

会長　天野　正美　　副会長　松井　誠廣

青木厚子	川面町	区長会推薦	天野正美	上佐切町	行政推薦
安藤　勲	上切山町	豊田森林組合推薦	市川俊策	足助町	区長会推薦
伊藤政和	西樫尾町	ＪＡあいち豊田推薦	宇井和男	久木町	区長会推薦
梅村康子	大河原町	区長会推薦	河合直美	富岡町	コミュニティ推薦
久米恵子	近岡町	区長会推薦	近藤千草	足助町	区長会推薦
志賀浩也	足助町	コミュニティ推薦	鈴木晴雄	明川町	区長会推薦
鈴木啓文	野林町	行政推薦	鈴木良秋	月原町	足助観光協会推薦
藤澤卓美	御内町	行政推薦	藤島徹夫	足助町	足助商工会推薦
松井誠廣	玉野町	行政推薦	芳野勝之	東大島町	区長会推薦

地域会議とは・・・・・



地域予算提案事業とは…

地域の意見を市の施策に反映させる仕組みです。

地域会議において地域で取り組む課題を決定し、行政と地域との共働による解決策を事業計画書の形にして、市へ提出することで事業化されます。

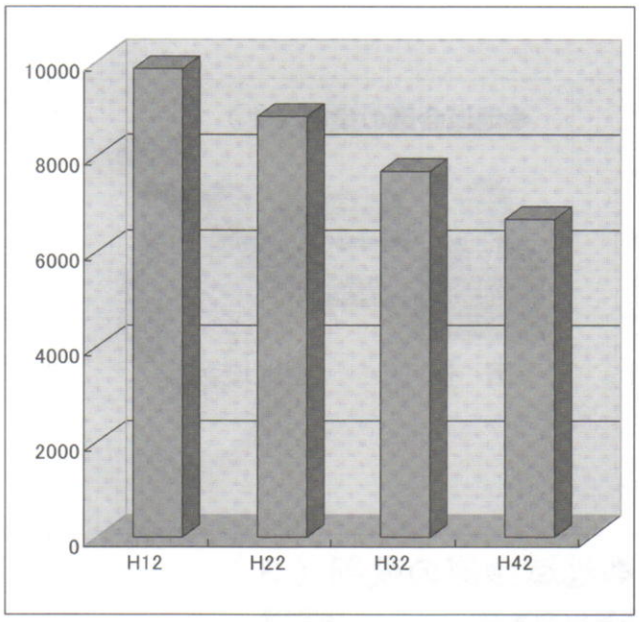
2. 地域づくり懇談会　13:55～

コーディネーター
加藤栄司氏（愛知県交流居住センター　事務局長）

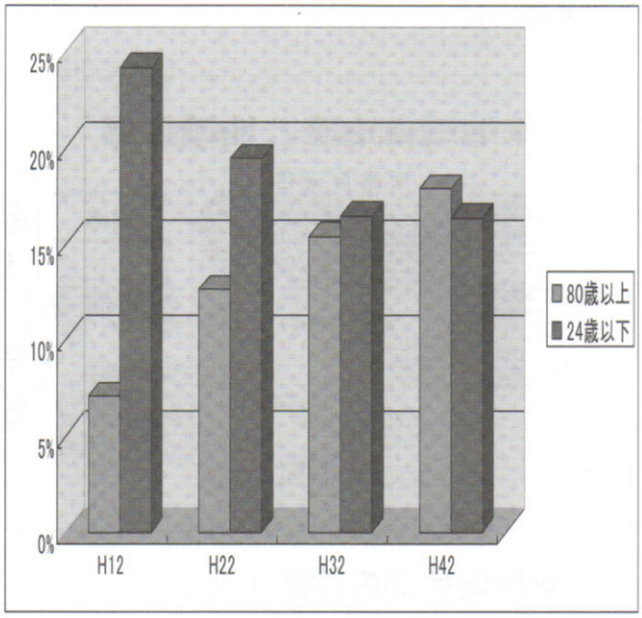
プロフィール
社団法人地域問題研究所主任研究員（技術士－建設部門・農業部門）。足助町時代に住宅マスタープランの策定や高嶺下ファームビレッジ構想の推進、にこにこ作戦の事業構築および推進などに関わった。２００８年、愛知県交流居住センターの設立に関わり、現在、事務局長として田舎暮らしを応援している！！

参考資料

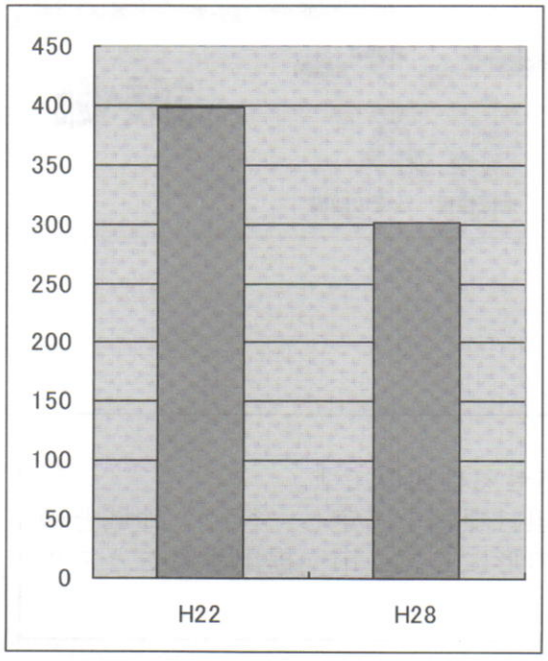
足助地区の人口の推移予測



若者とお年寄りの人口比率の推移予測



足助地区の小学校児童数の推移予測



人口推移予測では、今後の２０年間で約２，１００人の人口が減少するとされています。

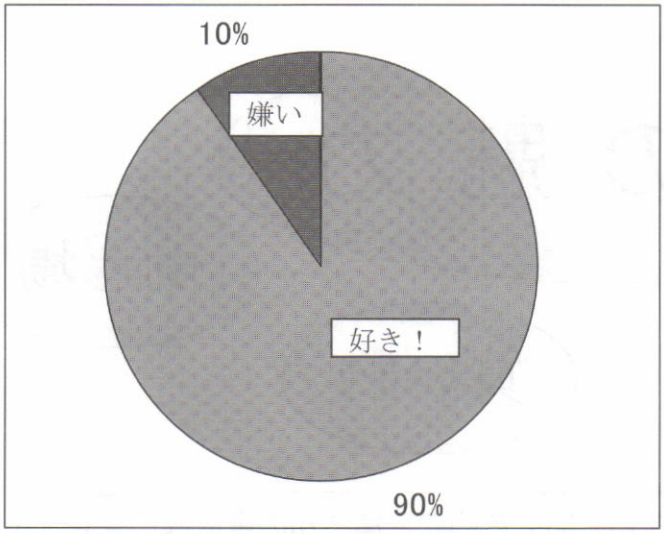
また、その内訳をみると、約１７％を８０歳以上の高齢者が占めており、１０年前と比べると１０％の上昇をしています。

さらに、２４歳以下の若者は約１５％まで減少し、地域から若者の姿がどんどん消えていくことが分かります。

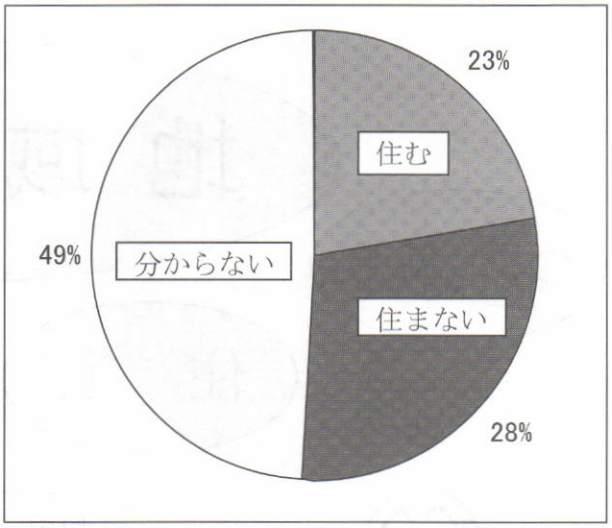
小学校の児童数を見てみると、今後の６年間で約１００人の児童が足助地区全体で減少します。現在の足助小学校に通う子ども達と同じ人数の子どもが６年後には、足助からいなくなるのです。

新成人アンケート結果（回収率　88％）

足助は好き？嫌い？



将来足助に住んでいると思うか？



住み続けたい地域に必要なものは？

順位	項目	人数
1	交通の便	59
2	働き場の確保	27
3	若者が集える場所	14
4	宅地・住居	12
4	仲の良い友達・仲間	12

住まない又は分からない理由

- 職場が遠いため。（職場がどこになるか分からない）
- 結婚したら、相手の希望も考えて住む場所を決めたい。
- 子どもの選択肢を広げたい
- 交通が不便で生活に困る
- もっと都会が良い。

新成人アンケートと若者懇談会の自由意見

足助の好きなところ

- 自然が豊かで、都会にはない魅力がある。
- ご近所さんとの仲の良い付き合い。
- 地元の友達が好き。
- 山里の暮らしが魅力的だ。
- 景色が美しい。

足助で直してほしいところ

- 不便なところ（公共交通機関がないので、お酒を飲んでも家に帰れない。買い物が出来る場所が近くにない。）
- 集まる場所がない（バスの待ち時間にも、することがない。子どもを遊ばせる公園がない。）
- 地域活動が大変そうだ

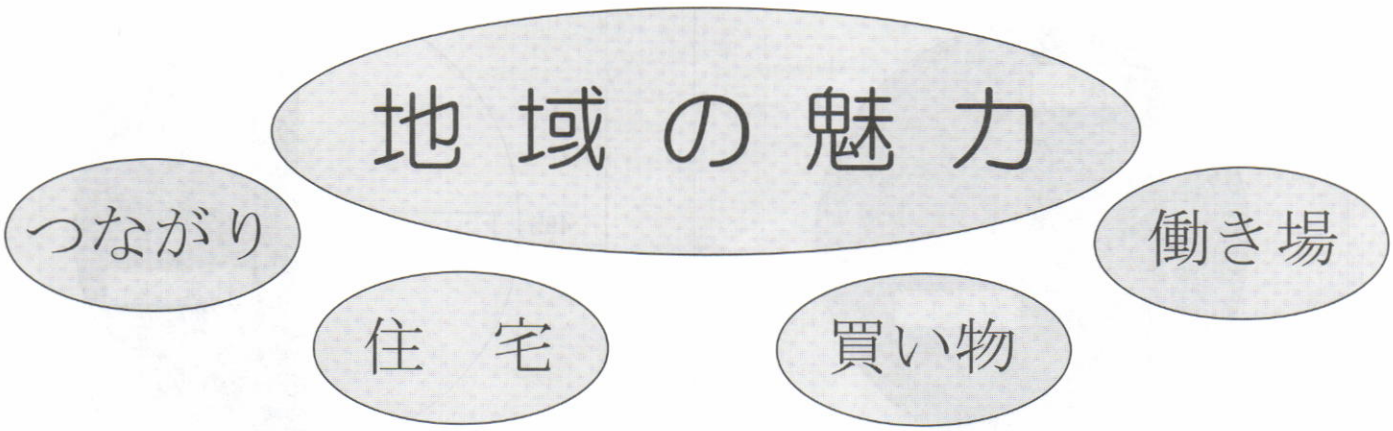
何故足助に住んでいるのか？（Iターンの若者意見）

- 元々田舎暮らしがしたくて、色々なところを見て回った。その中に、足助があって、足助のことが好きになった。
- 景色が凄く良い！！
- 魅力的な人が多い！

足助への想い

- 足助が好き
- 足助から出ることになったとしても、戻ってきたときには変わらないご近所さん、友達がいてほしい。
- 出来るなら足助に住み続けたいけど、職場や結婚相手によって左右されてしまう。

若者が住み続けられる足助にするための5つの視点



より良い足助にしていくために、皆さんの貴重なご意見が必要です！！
自分達はこうしたい！！これなら出来る！！というご意見がありましたら、是非この懇談会で発表をお願いします！！

メモ

3. 地域力アップの足跡　14:55～

（1）わくわく事業実践発表

霧山耕流会

「もの作り交流事業」（21ページ参照）

みずきの里づくり推進委員会　もみじ谷部会

「もみじ谷プロジェクト」（22ページ参照）

（2）足助地区コミュニティ会議活動報告

★足助地区コミュニティ会議の２２年度の活動テーマは「若者へのアプローチ」と決め、足助地区の若者等をコミュニティ活動へ取り込むためにいろいろな工夫をしました。

各部会、こんなに頑張りました。

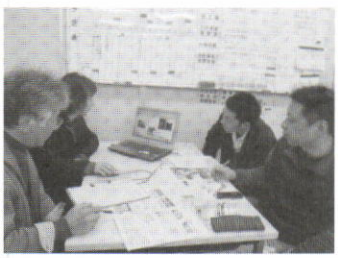
総務会

○５月２１日
・平成２１年度の活動報告および決算、平成２２年度の活動計画および予算、役員についてすべて承認されました。

運営委員会

○５月１２日
平成２３年２月１５日
・２回の運営委員会で多くの議案を話合いました。
○見やすいコミュニティたよりをめざして、年５回の発行をしました。

広報委員のみなさん



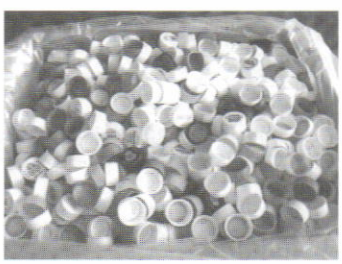
福祉部会

テーマ　～異世代との交流を目指す～

- 交流会（6/25・7/8・10/14・11/25・2/22 全５回）　参加者　30名
- 中学生との交流（9/14・9/21・10/4 全３回）　参加者　7名
- ふれあい祭り参加（10/31）　参加者　部員 11名　足助中１年生 13名
- 施設見学（12/2　みなみ福寿園、野田味噌商店）　参加者 13名

《ミシンで袋を縫って》

《みなみ福寿園にて》



エコキャップもたくさん集まっています。
引き続き集めていきますのでご協力お願いします。

環境部会

～山と水をテーマに活動しています～

- 森林体験学習会（御内地内）　9／5　参加者 16名
- ふれあいまつり参加　10／31　参加者 120名
  （木材を使ってのものづくり体験）
- 巴川周辺の環境整備　12.／7　参加者 50名
- 竹林の環境整備（まちづくり部会共催）1／25、29　参加者 25名
- 講演会（川に生息する生き物の実態を知る）2／10　参加者 25名

安全安心部会

「地域住民の防災・防犯意識を高めよう」
～みんなで守ろう！地域の安全～

・普通救命救急講習会：全４回、54 人参加
・防災防犯交通安全体験学習会（愛知県警）：8 月 22 日、22 人参加
・安全安心部会講演会①足助中学校長：10 月 1 日、24 人参加
　　②足助警察署：12 月 15 日、14 人参加
・防災防犯講演会：1 月 29 日、111 人参加
・安全安心部会研修会：2 月 16 日、14 人参加

ふれあいまつり実行委員会

10月30日・31日

出演者数：300人
展示作品数：570点
参加人数：のべ2,000人

たくさんの若者の参加を募りました。

・ザ・飯盛座「お姫滝幻想」にまゆみこども園参加
・足助中学校・足助高校・足助地区小学校
　足助地区全こども園の作品展示
・足助中学校吹奏楽部演奏・少年の主張発表
・足助高校２Ｃパフォーマンス・足助高校吹奏楽演奏

新成人を祝う会実行委員会

新成人の新成人のための新成人による足助地区新成人を祝う会

平成２３年1月９日　　**成人者出席：85名 91％出席率**

・足助高校生１１名のボランティア参加・全１３回の打ち合わせ会・２回の運営委員会
・思い出の写真展示・小学校・中学校の思い出ビデオ作製・成人式 DVD 作製・ふるさと御内の水で鏡割り

足助高校　アスケットにかっさい！！

足助人（アスケット）

私たちアスケットは、創立６０周年を機に「安全・防犯・環境美化・コミュニケーション活動の促進」を目的として結成しました。学校（足助高校）、警察（足助警察署生活安全課）、地域（足助少年補導委員会やＡＬＰＳ隊など）が連携して、月に１回防犯キャンペーンと清掃活動、防犯パトロールや声かけを行っています。

月１回の活動は、生徒会執行部を中心にボランティアの希望者を募り、毎回１５～２０名程度で実施しています。

街角で見かけたら、声をかけてください。

（3）足助のまちづくり活動報告

①足助　歴史を活かしたまちづくり事業報告

伝建部会の開催

毎月2回の会議を開催し、住民と行政との共働による伝建制度を活用した町並み保存について議論しました。また、住民と行政のパイプ役として、調査などの支援や住民の意見集約など、伝建制度の推進に向けた取り組みを行ってきました。活動の内容は、毎月「足助伝建かわら版」を発行し、活動内容をお知らせしています。

伝統的建造物候補調査

平成22年5月25日から6月15日の間で名古屋市立大学の溝口正人先生と愛知工業大学の岩田敏也先生により、171件の伝統的建造物候補の調査が行われました。

伝建制度導入に向けた市長要望

西町、新町、本町、田町の住民の方の93%の同意を得て、平成22年6月17日に伝建制度導入に向け、「歴史を活かしたまちづくりの推進にかかる要望書」を市長に届け、住民の思いを伝えました。この要望を受けて、市は10月1日に豊田市伝統的建造物群保存地区保存条例を施行しました。

伝建部会

伝統的建造物候補調査

市長要望

住民説明会の実施

伝建制度の具体的な内容についてご理解いただくため、10月16日（西町）、23日（本町）、24日（新町）、31日（田町）に説明会を開催し、148人の方にご参加いただきました。

先進地視察（若狭町熊川宿・小浜市小浜西組）

平成23年1月15日・16日に福井県若狭町熊川宿と小浜市小浜西組の重伝建地区を視察しました。どちらの地区も地域活性化に向けて積極的に活動を行っていました。今後の足助の町並みの活性化に向けて、良い刺激を受けました。

住民説明会（田町）

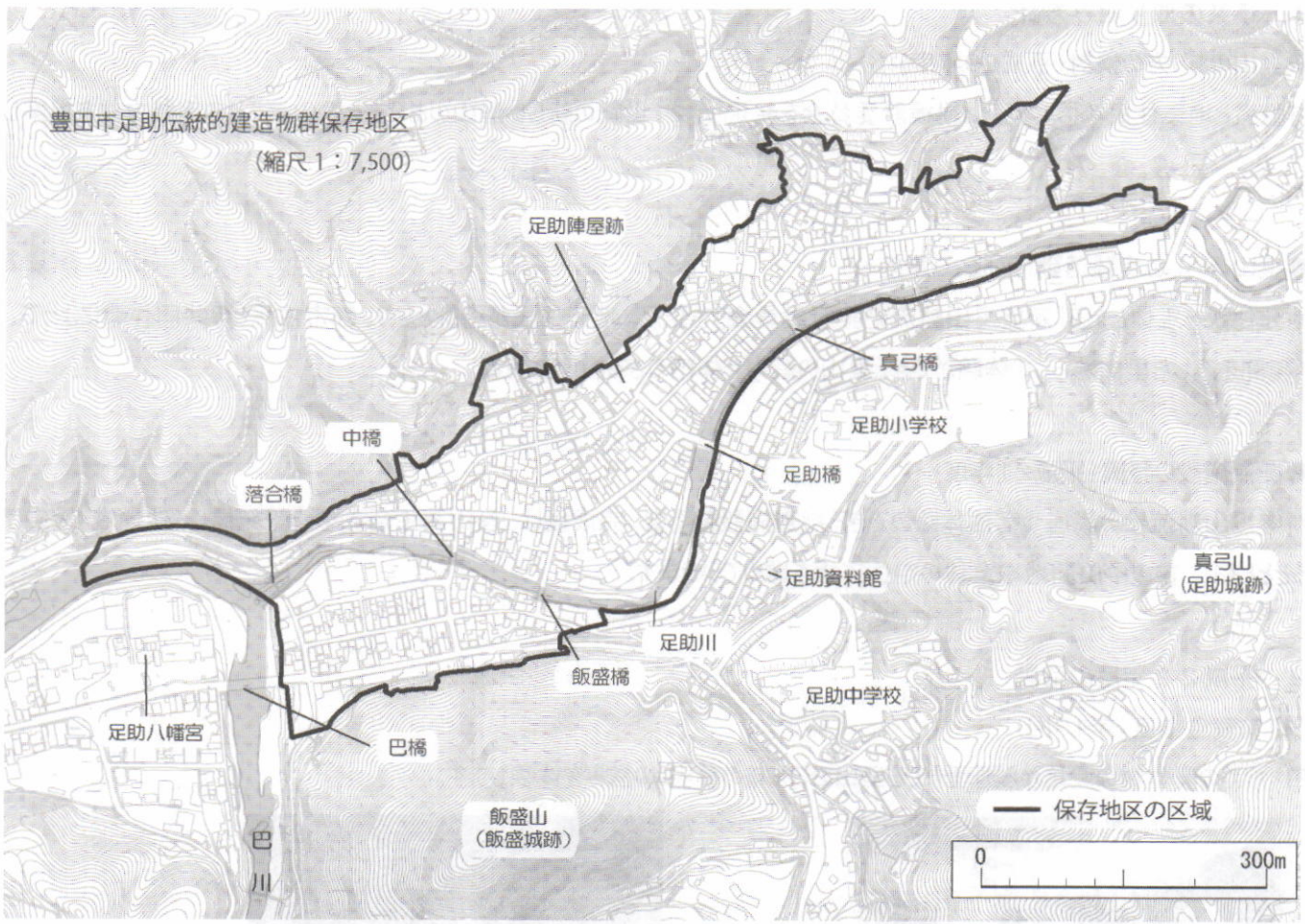
先進地視察（熊川宿）

先進地視察（小浜西組）

豊田市足助伝統的建造物群保存地区の区域

伝統的建造物群保存地区の区域は、条例制定を受け、平成22年10月に設置された豊田市伝統的建造物群保存地区保存審議会の諮問・答申を経て、平成22年12月28日に告示されました。この告示により、愛知県内で初めての伝統的建造物群保存地区が誕生しました。

保存地区の区域は、西町、新町、本町、田町を中心とする区域であり、東西はそれぞれ、伊那街道沿いに残る役行者石像（西：落合、東今朝平橋付近）の間、北は宗恩寺、陣屋跡、観音寺等を含めた山裾まで、南は東部を足助川の左岸（南岸）で、西部を飯盛山の山裾までの区域とします。



豊田市足助伝統的建造物群保存地区保存計画

伝統的建造物群保存地区保存計画は、伝建部会で議論しながら内容をとりまとめ、審議会の諮問・答申を経て、平成23年1月31日に告示されました。

この保存計画は、足助の町並みの歴史や特徴、それぞれの建造物の特徴、町並みの整備方針が記載され、この保存計画をもとに足助の町並み保存が行われます。

この告示により、保存地区内の建造物の新増改築や除却などを行う場合には、足助町並み景観相談会で審議し、現状変更行為許可申請を行う必要があります。

重要伝統的建造物群保存地区の選定を目指すとともに、
「足助らしさ」があふれる生活感のあるまちづくりを推進します

（３）足助のまちづくり活動報告

② 山村活性化事業「里山耕」

合併後の豊田市の過疎対策の一環として、里山住民と都市住民が交流しながら共同作業を行い、美しい里山景観を取り戻すことに取り組んでいます。そして、地域資源を活用して地域の魅力を高め、地域づくりに関わる新たな定住者を受け入れようとするものです。

１　事業の取り組み方針

●里山のあり方の検討（平成20年度）

有識者と地元住民等による里山耕検討委員会を発足し、21世紀の新しい里山のあり方と里山暮らしの実践方法を提案しました。

●里山暮らしの実践活動（平成20年度～）

地元住民を主体とする「新盛里山耕流塾実行委員会」を発足。地元住民が講師となり、都市住民との共同作業によって、１年間を通した里山暮らしの体験ができ、里山の魅力を体感できる講座を開催。

●拠点施設の整備（平成21年度～）

新盛里山耕流塾の講座や宿泊体験のできる拠点施設を整備。完成後は、里山再生活動を情報発信し、他地域へと広げるとともに、市の中山間地域全体の定住支援を進めていきます。

２　平成２２年度の活動

（1）旬栽食講座（年13回）

田・畑での農作物の栽培から調理まで、里山での1年の暮らしの営みを体験します。

（2）そばづくり講座（年８回開講）

耕作放棄地を再生し、そばの再生から刈り取り、試食までを行います。

（3）炭焼き講座（年3回開講）

里山の代表的な資源となる炭焼きを行うとともに炭の活用を学びます。

（4）もりの里☆市民農園（通年開催）

耕作放棄地を農園に整備し、農業に興味のある住民に貸し出します。田は10区画、畑は15区画の貸し出しを実施し、合計25名が取り組みました。

（5）自然農講座（年11回開講）

自然農（肥料や農薬を使わない）や不耕起移植農法を学び実践します。収穫量はやや少なかったものの、安全安心なお米を収穫し味わうことが出来ました。

3　拠点施設「里山くらし体験館」の整備

現在、新盛地区では新盛里山耕流塾など都市と農山村の交流の拠点として、「里山くらし体験館」を整備しています。オープンは平成23年5月22日を予定しています。皆さんのご来訪を楽しみにお待ちしています。

施設概要

- 木造2階建て
- 太陽光発電やLED照明を採用
- 薪ボイラーや薪ストーブを導入
- 談話室、調理室、会議室を設置
- 短期宿泊も可能です

（4）足助地域会議からの提言事業進捗状況報告

足助地域会議は、これまで３つの提言をしてきました。その提言のうち足助支所が現在、地域と共働で事業を推進しているものをご紹介します。
自分達の集落でもやってみようと思う事業がありましたら、お気軽に足助支所または地域会議委員までご相談ください！！

①通行支障木伐採事業・河川環境整備事業

内容　集落の力をあわせて、通行などの支障になる木や河川環境の悪化を招く竹などを伐採する事業です。行政は、高所作業車や危険箇所の伐採作業員を派遣することで、支援をします。

実績　９自治区（１６自治会）にて実施。　延べ作業距離　約８ｋｍを整備。
平成２１年度までに、延べ２９kmの支障木を伐採してきたので、合計で約３７kmを整備しました。

②歴史・伝統文化保存事業

内容　地域の言い伝え、伝統、史跡などを調べ、形にして残す事業です。行政は、アドバイザーの派遣などをして、書籍の製作の支援を行います。

実績　聞き書き講座に１１人出席。３月末に聞き書き集を発刊します。下記のような貴重な経験や智恵を集成したものです。３月末に自治会に配布予定です。

大山光鉞さんからの聞き書き　～抜粋～
～正月になると、今じゃあんまり餅をつかんが、昔はたいへん餅をついてね。朝から晩まで餅をついて、食べるだった。蓬を入れたり、豆を入れたり、いろいろして餅を作っただ。
小米餅なんちゅって、小米だけの餅があるが、小米だけじゃ、あんまり粘りがないもんで、ちょこっともち米を入れてつくわけだ。ほうせると、うまいだ。ほれを長くして、かまぼこの大きいやつみたいな格好にして、切って、焼いて食べるだった。～

③あすけ住暮（すくらむ）楽夢プラン

内容　定住対策連絡会を中心として、地域と行政がスクラムを組んで、地域が元気になる定住を進めます。地域は定住希望者の受け入れ態勢を整え、交流会を実施するなどして互いに理解を深めます。行政は定住相談の窓口となり、地域情報の管理・発信、定住支援策を推進します。

実績　○定住者　　９件２５人
○定住体験　１６人
○２戸２戸作戦　冷田と新盛で交流会を実施し、土地の測量実施設計を終えました。今後、さらに交流会を継続して実施し、分譲予定者を決定して販売をしていく予定です。
○定住希望の登録者数　１５４件（そのうち８割以上が空き家を希望）

これから足助で生まれる子どもたちが、毎日をたくさんの友達と笑って過ごせるように

空き家情報をどしどしお寄せください！！

④耕作放棄地防止事業

内容　拡大する耕作放棄地を防止するため、集落で課題となっている耕作放棄地の草刈・農地再生を支援する事業です。

※以下は概要です。詳細は、足助支所までお問合せください。

対象地	１年以上耕作放棄してある農地。自己保全農地は可。ただし、土地の所有者が高齢で足腰も悪くなり、田畑の耕作が出来ずに荒廃していたり、跡継ぎが集落から市外へ転出し、草刈などの維持管理が困難となっている等の理由があること。
草刈支援（3年間継続可）	草刈・集草・片付け一式（年２回以上）に対して面積あたりの負担金を支払います。
草刈応援隊	集落の戸数が２０戸以下の場合、草刈応援隊を派遣することができます。
農地再生支援（3年間継続可）	草刈、集草、除伐、耕運等の作業に対して、作業内容に応じて負担金を支払います。また、作物の苗等の再生農地で栽培する作物や肥料について、別に支援します。ただし、再生農地にて草刈のみを行う場合、継続期間は２年までとなります。

実績　１０自治区（１６自治会）にて実施。約５５，０００㎡の耕作放棄地が綺麗になりました。

参考

地域会議の提言したものの中には、豊田市の他の部署や他の団体で実施されているものもあります。その進捗状況のご報告です。

ピンピン・いきがい・ふれあいづくり事業

内容　近所にある集会所で、高齢者が元気で楽しく、いきいきと生活を送るための、集いの場をつくり、介護・医療予防、閉じこもり予防、生きがいづくりなどを目的とした事業を実施しよう。

実績　足助地区コミュニティ会議福祉部会加入グループ数 11（7 自治区）　グループ同士の見学会５回実施

地域ふれあいサロン事業　利用グループ数　２２（13自治区）　（担当：社会福祉協議会足助支所）

里山健康学び舎教室　実施自治区：足助　（担当：地域保健課）

里山げんきグループ活動支援　①・②のグループへ保健師や講師を派遣　（担当：地域保健課）

①教室終了後自主グループ　４グループ（明和・佐切・御内・御蔵自治区）　原則月１回

②既存グループ　延べ３８グループ

地域の山を守ろう事業

内容　100 年の森づくり構想に基づき、地域における森づくりの推進組織である「地域森づくり会議」を設置し、その中で「森づくり団地計画」を作成し、間伐等森林整備を促進します。（担当：森林課）

実績　平成23年2月28日現在

	21年度まで	22年度	合計
森づくり会議設置数	１８	１	１９
森づくり団地計画認定数	１２	１０	２２
団地計画認定面積（ha）	１８４．６５	１９２.６１	３７７．２６

4. エンディング　16:20～

三州足助太鼓　「翔（かける）」　（わくわく事業補助団体27ページ参照）

演奏曲目：「瑠璃～ruri」

5.　平成22年度　足助地区わくわく事業紙面発表

	団体名	事業名	事業目的	補助決定額
1	追分自治区	追分花いっぱい事業	これまでに整備した花壇の管理と花の植替えを実施する。	40,000
2	追分長寿会	追分花いっぱい事業	これまでに整備した花壇の管理と花の植替えを実施する。	40,000
3	田町新生会	田町わくわく活性化事業	花壇の手入れ、花の植替え、奉仕作業、交通安全教室、健康講座、健康教室、ウォーキング、定例会、ふれあいサロン真弓会参加など。	119,000
4	足助自治区　環境部会	河川流入家庭排水の浄化と街並み散策路側溝の悪臭除去	昨年から始めた各家庭の浄化槽への投入を増やし、更なる大腸菌郡数の削減を進める。街並み散策路悪臭除去活動は、これまで通り各自治会に設置された木箱での活動を続けると共に、それぞれの活動場所を作り散布する。	900,000
5	東大島ふるさと考	東大島の自然を生かした景観を守る活性化推進事業	東大島町の中央に位置する「桜ヶ丘」の整備をする。ウッドチップ歩道・看板立て・樹木の補植。東大島町内の自生するエドヒガン周辺の整備と啓発活動。	418,000
6	なかよし会	耕作放棄地の美化・蘇らせ事業	昨年度整備した耕作放棄地により多くの農作物を作る。	226,000
7	霧山耕流会	もの作り交流事業	復元農地で大豆・スイートコーン・ソバの栽培体験・試食会の実施。復元農地の害獣対策・整備。ふれあい広場の外柵・植栽・ベンチ設置・石釜製作。	437,000
8	みずきの里づくり推進委員会もみじ谷部会	神越渓谷もみじ谷プロジェクト	通称「道庵坊主」周辺を見通しのよいように下草刈りや杉檜などの除間伐をし景観を整備するとともに、プロジェクト紹介看板、名勝地案内看板、樹木紹介看板を立て、川までの歩道をつくる。	616,000
9	椿立地域づくり推進委員会	椿の里・癒しの時と空間の創造事業	平勝寺前の整備（史跡案内看板設置と周辺整備）、観音橋周辺の整備（耕作放棄地内の自生椿の群生地の保護）、展望台の屋根の修復。	900,000
10	足助植物園をつくる会	足助植物園造成事業	親王町自治会がつくったハイキングコース周辺の山林と地形を生かした植物園を造成し、足助地区の植物の保存と自然に対する理解を深める	340,000
11	新田町わくわくしよまい会	新田町の町並み景観整備事業	常夜灯の形をした花の展示台を製作し、お釜いなりの鳥居から観音山までの道筋に設置する。	384,000
12	足助中央商店街協同組合	まちの案内板（いすクロス）サイン事業	町なかに多くあるベンチにテーブルクロスのような布に地図やまちの紹介などを描き込んで、温かいおもてなしを表現する。	340,000
13	三州足助太鼓	和太鼓で地域づくりと子どもの育成を図る事業	和太鼓の演奏を通して会員相互、及び地域住民との親睦を図ると共に年間を通して、子ども達へ挨拶などの礼儀を教え心身の育成を図る。	207,000
				4,976,000

深津　正雄

1. 2団体名　追分自治区　追分長寿会　　代表　塚田登美郎　会員２４１名

追分花いっぱい事業

活動場所	井ノ口町、岩神町、近岡町
活動目的	花いっぱい活動を通して、地域住民の交流を図る。

○２２年度の活動の内容

追分自治区・追分長寿会では、「追分花いっぱい事業」として、井ノ口、岩神、追分にある花壇で、春・秋に花の植替え作業を行いました。

春にはベコニヤ 600 本、秋にはパンジー500 本を植えました。

夏の花壇管理作業は、水掛など大変な苦労をしましたが、良く育ってくれました。休憩には茶を飲み、世間話等に花が咲き、会員は仲間に会えて楽しく活動しています。

みんなで元気に作業中！！

成果と今後の目標

当初計画通り年２回の花苗の植替えの実施、月１回の花壇管理作業ができた。夏には、水掛け等に大変苦労したが、良く育ってくれて、皆さんにほめられた。

地域の景観づくり、美化活動ができたと思う。

今後とも、可能であれば続けていきたい。

3　田町新生会

代表　田澤　茂之　会員　50名

田町わくわく活性化事業

活動場所	田町交流館を拠点に足助町内
活動目的	町並みの景観づくりと会員の親睦・健康づくり向上事業

◆　設立のきっかけ

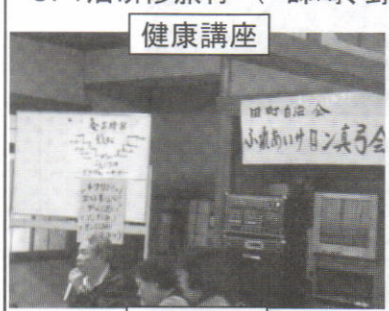
自治区内の高齢化が進みつつある中、会員の健康管理とコミニュケーションが重要となり役員の努力により積極的参加活動となった。

苗床づくり

◆　活動内容

1. 交流館裏の花壇、花苗植付けと草取り手入れ管理
2. 健康管理の講座　（　食中毒、インフルエンザ　）
3. ストレッチ体操による体力の向上
4. 交通安全教室
5. 1泊研修旅行　（　師崎、野間　）

花苗


健康講座

植付完成

花苗植付

発声練習

食事会

記念撮影

◆　成果と今後の目標

- 交流館近辺が花で飾られて美しい街づくりに貢献できた。
- 地域住民と取り組み地域との連携が図られた
- 健康教室等により健康管理の向上が出来た。
- 今後も継続し会員の親睦の事業として進めたい。

4足助自治区　環境部会

部長　大山武二　　会員６００世帯

家庭排水の浄化と街並み散策路側溝の悪臭除去事業　　分野/地域の生活環境改善、自然環境保全

活動場所	自治区内の世帯216戸と７自治会集会場の浄化槽と８箇所の街並み散策路側溝
活動目的	２０年度足助川・交流館裏での水質調査で大腸菌類が環境基準値の79倍もの高い数値が示され、これは家庭からの浄化槽排水が原因であるとの見地から、大腸菌に大きな効果実績を持つEM活性液で浄化槽の浄化と、街並み散策路側溝の悪臭除去を行い、区民の環境意識を高め、この地を訪ねる人たちが綺麗な水と緑の風を楽しんでいただける環境づくりを進めます。

○設立のきっかけ

平成17年豊田市への合併と同時に、足助自治区内の環境保全と改良・整備などを行い、区民の「安全・安心で衛生的な生活基盤」の構築に寄与する事を目的とする。

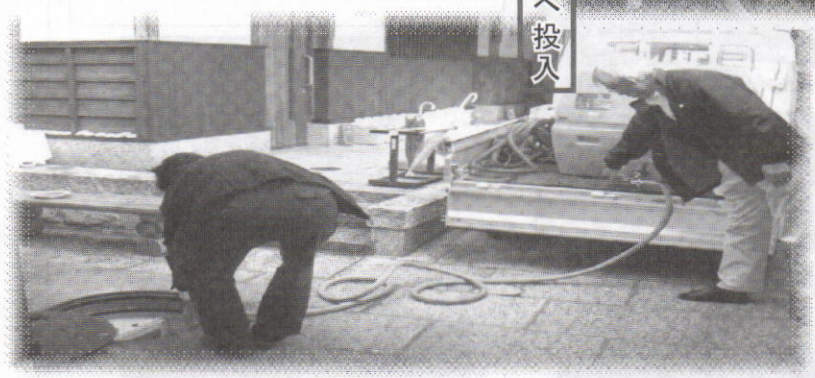
○活動の内容

２２年度は、自治区内で活動に協力していただける家庭をアンケート調査で再募集したところ、現在２１６戸の家庭でそれぞれ、浄化槽へ投入したり、流しやお風呂で使用したりと様々な活動を続けています。又、各自治会内の木箱での活動は下右の写真の様な方法で自治区内８箇所で街並み散策路側溝の浄化と悪臭除去にも取り組んでいます。

今年は各自治会集会場浄化槽への投入も実施しました。

自治会集会場へ投入

町並み散策路での活動



トイレへの投入

成果と今後の目標

一昨年に続き、昨年夏にも、紙屋淵と海老屋裏の　足助川でたくさんの蛍が発生し、連夜多くの住民の皆さんや近隣の方が蛍観賞に訪れ、にぎやかな足助川遊歩道でした。

今年度でわくわく事業への応募資格を失いますが、区民の皆様と今後下水の整備が終わるまでこの活動を続ける事が出来るよう、各自治会環境委員さんの協力を頂きながら今後の活動を協議しています。

今後地域の機運が高まれば「蛍サミット」を誘致することも視野に入れた活動も考え、これまで以上に区民の環境意識が高くなり、水の源流域に生活する足助地区の皆さんの今後の環境意識と環境改善・保全のお役に立てればと思います。

5　団体名　東大島ふるさと考　　代表　小沢　理人　　75名

東大島の自然を生かした景観を守る活性化推進事業

活動場所	東大島集会所を拠点として、東大島町中央に位置する桜ヶ丘
活動目的	・東大島地内の耕作地、山林の保全放棄地で、荒地となった場所の環境美化を図る。 ・地域内のコミニュケ-ションを図る

○設立のきっかけ

平成15年(今から8年前)東大島町中央に位置する(現在の桜ヶ丘)小高い丘(昔の草刈場)地主の保全放棄により、孟宗竹や笹だけ、くず,などの雑草で荒れほうだいとなっていた。
この状態を改善し環境美化作りを目指して、当時の足助町大島自治区常会で提案し全員一致で合意され当時の、『夢推進委員会』を母体としてボランティア活動で伐採と、植樹をすすめ現在まで毎年3回桜ヶ丘の環境保全を実施してまいりました。
昨年、自治会でわくわく事業の内容を知り、従来から実施してきた桜ヶ丘の保全活動の、更なるレベルアップと自治会内のコミニュケ-ションの向上を目指し、東大島ふるさと考を立ち上げ活動を実施してきました。

○22年度の活動内容

1、桜ヶ丘の自然植物調査と第1回草刈（５月）

- 自然植物の実態調査結果として特別残したい植物は見当たらなかった(自然のアザミ程度)
- ボランティア30名で草刈、桜、紅葉の樹木に巻きついたツルの除去
  (半日を使って整備を実施しました)

2、桜ヶ丘の散策路つくり'(8月と10月)

- 散策路の路面つくり
  散策路の路盤作りとして凹凸部分の平面化
  水の湧き出す場所に暗きょ排水管の設置
- チップ流れ防止のための、丸太設置
- チップを敷き詰めを実施(190mの散策路の完成)

3、看板、植樹の実施（1月）

- 散策路の名称募集結果「わくわく小道」に決定
- 建て看板の設置、樹木の補植(かわず桜5本
  三つ葉つつじ16本)

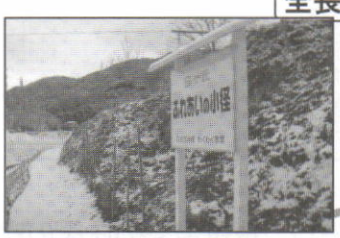
桜ヶ丘の位置

ウットチップ散策路

名称を募集して決定

看板の周りに三つ葉つつじ16本植

全長190mのウットチップ敷き詰めた散策路完成しました



成果と今後の目標

・従来は3回/年の草刈をしてはいましたが、散策路はすぐに雑草が生え長靴でないと歩けない状態となっていました、今回、除草剤をまき、ウッドチップを5センチ敷き詰めることで非常に歩きやす散策路が完成しました。(歩く人が増加することで踏み固められ更に良い散策路が出来上がります)

・散策路の回りの桜ヶ丘の景観もソメイヨシノ、八重桜、も花が咲くようになり、秋にはいろは紅葉の紅葉と、楽しませてくれる風景へと改善されてまいりました。更に三つ葉つつじを植樹し高木、中木、低木と充実してきました。

・今回のわくわく事業で自治会の多くの人が参加し取り組めたことは
コミニュケ-ション向上へと結びつきました。

6 団体名　なかよし会　　代表 鈴木 恵子　　会員 19 名
耕作放棄地の美化・蘇らせ事業

活動場所	豊田市摺町地内
活動目的	・山里の荒廃した耕作放棄地を改善し、景観作りと農作物を作る ・地域外の人々、子供たちとの交流をはかる

○設立のきっかけ

・集落の玄関口の環境整備（美化）をやろうと立ち上げ、集落に入って来た瞬間、「綺麗なところだよな～」っていうイメージを強調したい！！

・若い人たちの声もあって、一度ダメ元でもやってみようと思った。

○22年度の活動内容

雨ニモマケズ。夏ノ暑サニモマケズ。猪ニモマケズ。雑草ニモマケズ。

1. 21 年度に植えた、花桃の花が咲いた！

2. 軽四トラック一杯の野菜の苗を寄付してもらった。

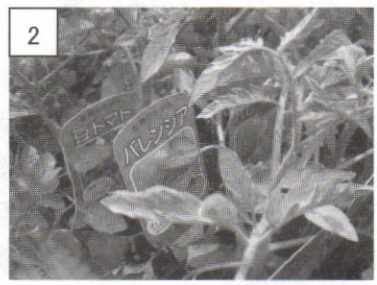
3. 苗が少し大きくなった様子。

4. 子供たちと一緒にジャガイモ掘りやスイートコーン採りの後、みんなで仲良くカレーライスの食事会

5. 大きな「芋。採ったゾー！！」親子でさつまいも掘り

6. 秋の収穫祭
サツマイモ焼、ゆでピーナッツ枝豆、イモ天ぷら、おにぎり豚汁などの食事会

1



2

3

4

5

6

成果と今後の目標

・ 22 年度は雨の日が多かった。夏の暑い日も多かった。寒い日も多かった。スイートコーン採り、いも掘り体験には多くの人が集まって楽しく出来たことを喜びたい。

・ 今後、国の政策は農作放棄地のことは考えてくれているのか？待っているだけではダメ！自分たちの町は、自分たちで守る。私たち、少人数でもやれる事、高齢者から子供まで、花や野菜作りで健康な体作りが出来る様、多くの人々が集まる様に、笑顔がある集落作りにしたい。

7 団体名　霧山耕流会　　代表　山下　清　　会員(参加者)70　名

ものづくり交流事業

活動場所	豊田市霧山町地区内
活動目的	・高齢化による休耕地増加の抑止と有効活用 ・農業体験、農産物加工体験などを通じて食と農への理解の増進 ・農村部と都市部、海辺のまちとの交流、子供からお年寄りまで世代を越えた交流

○設立のきっかけ

高齢化で休耕地や耕作放棄地が増え、農地が荒廃して景観を損なっている。 これを改善できないかと考え、地元の農業未経験者や産直『まごころ市場』のお客さんに呼びかけて、農業体験としてH19年に活動をスタート。 農産物の加工体験や収穫祭のイベント等も行い、興味を持って楽しく参加できるようにして、地元とまちの人との交流で地域を活性化したい。

○H22年度の活動内容

1. 大豆・黒豆の栽培
   - ・草刈り、ほ場起耕(5月)□
   - ・大豆・黒豆の種まき作業体験(7月)
   - ・大豆ほ場の草取り体験(8月)
   - ・枝豆収穫体験、収穫祭(10月)
   - ・大豆の収穫体験収穫祭(11月)
   - ・大豆の脱穀作業体験(12月)

大豆種まき

草取り参加者

2. スィートコーンの栽培
   - ・スィートコーンの種まき(5月)
   - ・苗の植え付け(5月)
   - ・ベビーコーンの収穫(7月)
   - ・スィートコーンの収穫、収穫祭(7月)
   - ・スィートコーンの地域盆踊大会での販売、(8月)

スィートコーン収穫

収穫祭

3. 豆腐づくり体験
   - ・大豆の豆腐と黒豆の豆腐づくり(1月)
   - ・手作りコンニャク、五平餅づくり、おからを使って料理(1月)

豆腐づくり

4. 触れ合い広場の整備とハウスの製作
   - ・山茶花植栽(1月～2月)
   - ・石釜作り(11月～1月)

成果と今後の目標

【成果】
- ・普及所の指導を受け、大豆と黒豆を栽培して4年目。町外からの参加者増加(約半数)
- ・スィートコーンの盆踊大会での販売開始大好評
- ・豆腐づくり体験も毎年実施し、今年は4回目(今年度参加者　　名)
- ・連作障害を防ぐため、今年もスィートコーンを栽培。家族で参加も多く大好評(87名)
- ・枝豆収穫祭、大豆収穫祭、スィートコーン収穫祭を開催。猪焼肉、五平餅、ソーセージ作りを体験

【今後の目標】
- ・大豆の連作障害への対応
- ・参加アンケートやニーズ調査で改善をおこない、参加者の満足度を高めたい

8 団体名 みずきの里づくり推進委員会もみじ谷部会 代表 水野一盛 会員19名
神越渓谷もみじ谷プロジェクト

活動場所	神越渓谷（大見辻～段戸）　本年度対象区域　通称「中立ち裏」
活動目的	「持ち込まない、持ち出さない、汚さない、過度に手を加えない」を基本姿勢にしながら、渓谷や道路環境を整備するとともに、地域の歴史や自然、景観等をクローズアップし、多くの市民の親しめる場にする。＜神越渓谷もみじ谷プロジェクト＞

○設立のきっかけ

「水と木のふるさと」御内自治区の地域づくりの会として平成１４年度発足した「みずきの里づくり推進委員会」で取り組んできた「神越渓谷もみじ谷プロジェクト」を推進するため、平成２２年度設立。

○平成２２年度の活動内容＜初年度＞

1　神越渓谷の保護樹に札をつける。（継続３年目）

・自生している天然のモミジ、ツツジ、ツバキ類などの貴重な樹を積極的に保護していくため、赤いプラスチックの保護樹の札を付ける。(1,000枚)

・道路際の支障木の伐採や草刈り作業時などに、区別が付いて安心して作業ができるようになった。

2　県道沿い神越川左岸を整備する

・優れた河川景観が道路から見渡せるように、その支障となる杉や檜などの間伐や枝打ちを行った。（一部高所作業車を委託）

3　優れた景観を持つ名所や歴史的に由来のある　旧跡を紹介する看板の設置

・昔から伝説が残る滝や淵だけでなく、整備する中で新たに発見した奇岩や景勝地を発掘しその紹介看板を立てる。

・神越渓谷の自然を紹介する「神越渓谷の樹」の看板も設置した。

4　成果と今後の目標

・当初予定の「道庵坊主の滝」周辺の整備がほぼ終了できた。

・名所紹介看板等の設置、ホームページの開設により情報発信ができた。

・神越渓谷は全長３０km、標高差７００mの極めてスケールの大きな渓谷であるので、ポイントをしぼりつつ、ひとまず３年間をかけて、整備を進めたい。

・趣旨に賛同をいただける方の参加を募り、息の長い継続的な活動として発展させていきたい。

・（株）神越渓谷＜ます釣り場＞と連携し、多くの人が訪れる観光地となるよう積極的に整備と情報発信を継続していきたい。

9 団体名　椿立地域づくり推進委員会　代表　寄田 錡　会員５５名
椿の里・癒しの時と空間の創造事業

活動場所	綾渡町内　観音橋周辺・平勝寺前・展望台周辺
活動目的	**椿立自治区周遊コース**の完成。活動を通して椿立自治区民の一体化の促進。参加する楽しさ、一体感を大切に、さらなる地域の活性化につなげる。

○設立のきっかけ

設立は平成17年。私たちはこれまでに、白鳥山の石碑群、水車と旧道の復活を成し遂げてまいりした。そして只今２ヶ年計画で次なる事業「椿の里 癒しの時と空間の創造事業」に取り組んでいます。この事業を椿立自治区におけるわくわく事業の集大成と位置づけ、観音橋周辺の整備を中心に、平勝寺前の整備と展望台の屋根の修復を遂行し、**椿立自治区周遊コース**の完成を目指しています。

○２２年度の活動の内容

木材の伐採

竹の伐採

6月15日
公開審査で行ったプレゼンテーションを、椿立自治区各戸代表者集合の場で見ていただく。
事業の方向性を示し、意思統一をはかる。

8月29日
展望台周辺のスギ・ヒノキの伐採
屋根葺き前のハツリ作業開始
↑
瓦葺き職人さんの作業はじまり
ベンチテーブルの脚の型枠作り
平勝寺前の看板周辺の整備前の地ならし
不要物の撤去
↓

竹の運び出しと粉砕処理

11月21日（全体作業の日）
平勝寺前のベンチテーブルの基礎工事
観音橋周辺の竹の伐採
竹の運び出し
粉砕機による破砕処理

平勝寺前の整備

1月2日～3日
観音橋周辺整備の続き

成果と今後の目標

ほぼ計画どうりに事業をおさめることが出来ました。全体作業の参加率はほぼ１００％で、自治区在住者の参加意識の高さを改めて知ることとなりました。さらなる地域の一体感を感じ取ることが出来ました。

２ヶ年計画の半期を終え、**椿立自治区周遊コース**のイメージをつかむことが出来ました。訪れる人に癒しを体感していただくだけでなく、今住まう子供たちや若い世代にとって本当の故郷になるよう、思いを込めて取り組んでまいります。

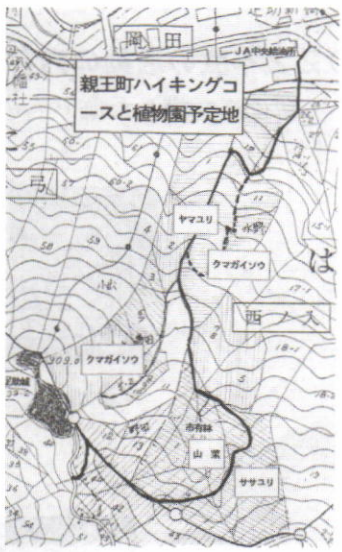
10 団体名　足助植物園をつくる会　代表　市川　俊策　会員　４０名
足助植物園造成事業

活動場所	親王町ハイキングコース周辺（JA 中央給油所～足助城　約８５０ｍ）
活動目的	ハイキングコース周辺の山林と地形を生かした植物園をつくり、足助地区の植物種の保存と自然についての関心・理解を深める場とする。

○設立のきっかけ

観光バスの雑談でハイキングコースの利用客を増やしたい。足助にある草木を一杯植えたら・・・・。コース周辺を整備し、足助地区にある草木を自然に増える力と適地での種蒔きを中心に増やしできるだけ多くの草木を集め特色のある山草の群生地をつくり子供が自然に興味を持つ場にする。

○２２年度の活動の内容



１　「足助植物園をつくる会」創立総会（２月）親王町内で有志が４０名集まる。

２　植生調査（５月）種子植物８４種 シダ植物　９種

３　クマガイソウ・ササユリ増殖地調査（６月）

４　観察路づくりと竹の伐採（５月～２月）　男性中心で進行、竹が多くて難航した。

５　草木の種蒔きと移植（５月～３月）
　女性中心で進行　種蒔き約２５種 植付け約２５種（標準）
　種の採取は、自生地の減少、多く残る道端は草と一緒に刈られ想像以上に難しかった。

７　巣箱作り（１月）
　親子で作り、コースや周辺地に掛ける。

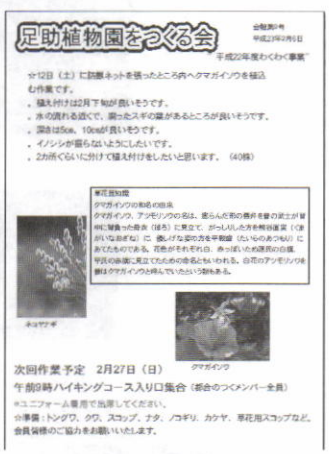
８　猪ネット張りと落ち葉広集め（５月、２月）
　カブトムシ増殖実験用　３０ｍ×２張り
　クマガイソウ・ヤマユリ用　５０ｍ×５張り

９　クマガイソウ植付け（２月）
　　増殖が期待できるところ　２ヶ所　４０株

１０　ササユリ育苗槽づくりと幼球の移植（１月、２月）
　　育苗槽　１０箱　幼球　１０００個

１１　育苗場・苗の一時保管場所づくりと種蒔き
　水やり・交雑防止等で候補地を転々と変える。

１２　広報誌発行（１号～９号）


足助植物園をつくる会

☆12日（土）に防鹿ネットを張ったところ内へクマガイソウを植込む作業です。
・植え付けは2月下旬が良いそうです。
・水の流れる近くで、腐ったスギの葉があるところが良いそうです。
・深さは5cm、10cmが良いそうです。
・イノシシが掘らないようにしたいです。
・2カ所くらいに分けて植え付けをしたいと思います。（40株）

クマガイソウの名の由来
クマガイソウ、アツモリソウの名は、歌舞伎の義経を敵の武士が背中に背負った弁慶（ほう）に見立て、がっしりした方を熊谷直実（くまがいなおざね）に、優しげな姿の方を平敦盛（たいらのあつもり）にあてたものである。花色がそれぞれ白、赤っぽいため源氏の白旗、平氏の赤旗に見立てたものであるともいわれる。白花のアツモリソウを敦盛はクマガイソウと呼んでいたという説もある。

ネコアツモリ
クマガイソウ

次回作業予定　2月27日（日）
午前9時ハイキングコース入り口集合（部会のつくメンバー全員）
※ユニフォーム着用で出席してください。
☆準備：トング7、クワ、スコップ、ナタ、ノコギリ、カケヤ、草花用スコップなど。
会員皆様のご協力をお願いいたします。

植生調査

植え付け

伐採

成果と今後の目標

ジエビネの自生の発見、５年前に植えたフタバアオイの群落の成長等に継続の手応えを感じた。
竹の伐採で山が予想以上に明るくなり、増殖場所が増え、観察路が延長できた。
種蒔きや植付けの量は少なかったが、今後の増殖についての目処がたった。
今年度の活動を効率よく継続発展させ、草木の生長を見守る。
　成長が早く見栄えする山草の導入・広報誌の充実・日常生活の雑談等で関心と意欲の増進を図る。

11 団体名 新田町わくわくしよまい会　代表　本多　慶助　会員５名
新田町の町並み景観整備事業

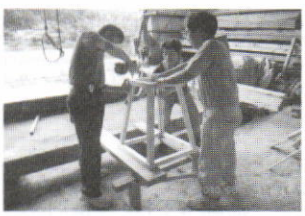
活動場所	足助町　石橋、岩崎地区
活動目的	地域の景観整備による活性化

○設立のきっかけ

重伝建の指定に向け、町並みにあった装飾をして、少しでも多くの人々に訪れてもらい、地域の住民とふれあってほしい。

○２２年度の活動の内容

常夜灯を模した飾り台の設置



組み立て作業

設置風景

成果と今後の目標

自発的に花を飾ったり、観光客と花のお話をしたりして交流の一助となっている。
今後、岩崎地区にも展開していきたい。

12 団体名　足助中央商店街協同組合　代表　佐久間章郎　会員 126 名
まちの案内板(いすクロス)サイン事業

活動場所　足助地区商店街内

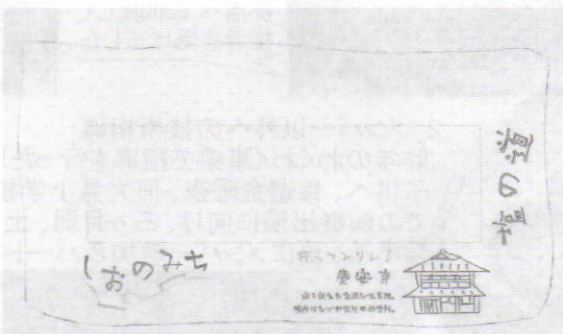
活動目的　足助地区商店街をおとずれる来街者の情報提供及び休憩場所の設置

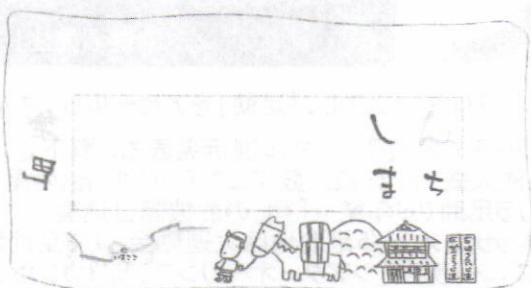
設立のきっかけ

足助地区の商業者の経営安定のための事業活動の支援

22 年度の活動内容

月１回の「中馬なごやか市」をはじめ商店街（町並み）への集客のための事業を展開。その１つとして現在商店街に設置してある休憩ベンチを活用して外来者に、わかりやすく、温か味のある商店街や、名所の案内をするためにベンチにかぶせるクロスシートを町の中に設置する。デザインは、足助の町並みに合ったデザインにするため唐沢照文氏にお願いし足助らしさを強調。





成果と今後の目標

２３年度には足助地区が重伝建に指定され整備が進んでいく中で、常に最新の情報を外来者に提供するために、次年度以降もベンチシートをよりグレードアップして、実施することにより足助の商店街(町並み)の PR に努める。

13 三州足助太鼓

代表　鈴木正治　　会員 25名

和太鼓で地域づくりと子どもの育成を図る事業

活動場所	旧大見小学校、西尾（プロ開催）での太鼓教室、豊田市内外のイベント会場
活動目的	和太鼓の演奏を通じて会員相互・地域住民との親睦を図ると共に年間を通して市内外のイベントなどに出演し会を盛り上げる。又、演奏への参加を通して、子供達へ挨拶などの礼儀を教え心身の育成を図る。更にプロの和太鼓講師の指導を得て技術向上を図る。

○設立のきっかけ＞

平成8年10月、全国に「足」のつく市町村ネットワークづくりを目指す「全国足並み会」が草の根的な交流を図る為、会員市町村が共通の和太鼓の創作曲を作ろうとした事がきっかけとなり、旧町内の太鼓好きが集まって結成。「足並み会」散会後、独立し上記目的の為に活動を推進中。

○２２年度活動の内

1. メンバー（会員）の技術力向上

毎週、月・火・木の夜、仕事を終えてから旧大見小学校に集合し、基礎練習・曲練習を実施。
更に技術力の向上を目的にプロの和太鼓奏者等の技術指導も受ける。
例：2～ 3ヶ月毎に青沼保人プロの指導、関西地区で活躍中のプロチーム「松村組」所属の山田純平プロの太鼓教室へ約 1回/2ヶ月で参加、プロチーム「志多らの」拠点で稽古参加。

青沼先生の指導風景

東栄町の「志多ら」拠点へお邪魔して指導を受けました。

西尾で開催の純平教室

三重・知多・名古屋からも参加。

2. メンバー以外への技術指導

昨年のわくわく事業で指導を行った「子供太鼓_翔」へ、その雄姿に憧れ新たに加わった子供へ、毎週金曜夜、旧大見小学校で技術指導を実施。又、7月の東京ディズニーランドでの演奏出演に向け、三ヶ月弱、土日返上で追加稽古も行い立派に演奏できました。
演奏後、更にメンバー増加＆パート換え＆曲のバージョンアップして本日再びお披露目。

青沼先生による「子供太鼓_翔」の稽古風景

3. ホームページ・ブログを設立し、「足助」をアピール（パネル展示発表もご覧下さい）

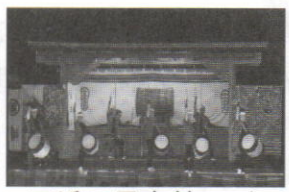
4. 2010年イベント等での演奏（パネル展示発表もご覧下さい）

1/10足助地区成人式、2/21和太鼓フェスティバル_結(西尾市で開催の太鼓教室で参加)、
3/13シャングリラ足助（09年結成「翔」のお披露目演奏）、3/27三州足助太鼓自主コンサート、
5/2あすけルネッサンス、6/5足助地区大運動会、7/3足助地区プレおいでん（荒天で演奏中止）、
7/11東京ディズニーランド_シアターオーリンズ、8/3カンボジアの子供達と交流会、
8/7新盛地区夏祭り・御蔵地区夏祭り、8/8足助田町夏祭り、8/27日近の里太鼓フェスタ
10/3あすけ夢里まつり、10/11名古屋ﾏﾘｵｯﾄｱｿｼｱﾎﾃﾙ、10/23足助中学校40周年記念、
10/23 JAあいち秋のわくわく元気祭り、11/14岡崎城二の丸能楽堂、
11/27香嵐渓まつり、2/27純平太鼓教室お披露目、3/12シャングリラ足助（本日）、他

ｼｬﾝｸﾞﾘﾗ足助

自主コンサート

東京ﾃﾞｨｽﾞﾆｰﾗﾝﾄﾞ


日近の里太鼓ﾌｪｽﾀ

足中40周年記念

成果と今後の目標

今年度、足助太鼓として21イベント、子ども達（子供太鼓「響」「翔」）は12イベントで稽古の成果を披露できました。大きな目標であった、自主コンサートの開催・東京ディズニーランドでの演奏を実現でき、地域の各種イベントでも会の盛り上げができたと思います。

今後はプロによる指導も含めメンバー自らの更なる技術向上と、子供達への技術指導を充実し、心身の育成、活動の繁栄・地域の活性化を推進していきたいと思います。

新たな足助づくり・地域づくりへの挑戦を応援します

平成23年度 足助地区 わくわく事業募集！

募集期間 平成23年4月1日（金）～4月28日（木）

地域の魅力を生かした新しい地域活動

わくわく事業は、地域資源（人、歴史、文化など）を活用し、地域課題の解決や地域の活性化に取り組む事業を支援する新しい発想の地域活動支援制度です。
「わたしたちの地域は、わたしたちの手でもっと住みよく楽しく！」を合言葉に皆さんでまちづくり活動を始めてみませんか。
団体からの申請を地域会議が審査して、市が助成を行います。

募集する事業

（1）保健、医療又は福祉を通して地域づくりを推進する事業
（2）地域の伝統、文化、郷土芸能又はスポーツを通して地域づくりを推進する事業
（3）安全・安心な地域づくりを推進するための事業
（4）地域の生活環境の改善、景観づくり、自然環境保全を図る事業
（5）子どもの健全育成を通して地域づくりを推進する事業
（6）地域の特性を生かした産業振興のための事業
（7）地域づくりに有効な助言や提案を受けるための事業
（8）その他個性豊かな住みよい地域社会を構築するための事業
※市や市の外郭団体などの助成を受けている事業など市長が適当でないと認めたものは対象になりません

応募資格・要件

1. 原則５人以上で組織された団体
2. 活動が当該地域の多数の住民に支持されると認められる団体
3. 政治活動、宗教活動及び営利活動を目的としていない団体

足助地区の要件

○同一事業の申請は原則3年を限度とします。

応募方法

下記書類を**4月28日(木)**までに足助支所地域振興担当へ提出してください。

●提出書類　・交付申請書　・申請団体概要　・申請事業概要　・年間活動計画書　・予算書　・会員名簿兼同意書　・申請団体の規約・会則など

＊3年目以降の事業は、事業成果検証シート。

＊申請書類は足助支所に用意してあります。また豊田市ホームページからも取り出すことができます。

審査

●審査方法

地域会議による公開審査を行います。**【5月22日(日)】**

書類審査とプレゼンテーション審査(またはヒアリング審査)を行います。
※プレゼンテーションでは申請団体に提出書類に基づいた説明をしていただきます

●審査基準

1. 補助要綱に適合しているか
2. 事業計画の妥当性、社会的公益性・地域貢献性、発展性・将来性が適合しているかなど
3. 3年目以降の継続事業については、事業成果が期待に十分応えているか

●対象経費

補助事業の目的を達成するために直接必要な経費。

(ただし、1事業における補助金は 100万円を上限とする。)

●対象外経費

1. 団体の事務所などを維持するための経費
2. 団体の経常的な活動に要する経費
3. 団体の構成員に対する食糧費

足助地区わくわく事業の補助対象外経費

要綱第5条第2項の補助対象と認められない経費について、次のような基準を定める。

(1) **認められない経費は、原則的に、経費が必要である理由がしっかりしていないもの、説明ができないもの**とする。その事例や例外など、又は、**必要と認められた経費であっても、補助率や限度額を定めるものについて別表1に定める。**

別表1　→

別表１

項　目		(1)補助対象経費と認められない事例　(2)限度額・条件を定める事例
報償費		(1)講師料、出演料以外（団体の構成員に対する謝礼は対象外）の経費。 例）参加者全員に配布する参加賞、ゲームなどの景品 (2)講師謝礼は1講師につき、1回10万円を上限とする。
人件費・賃金		(1)補助事業を推進するために必要性が十分説明できない経費。
需用費	消耗品費	(1)作業時の軍手。イベント用の箸・皿。 (1)草刈鎌・鍬・鉈・鋸。＊ただし、草刈鎌・鍬・鉈・鋸については都市住民との交流事業で必要な場合、経費の1／2を対象とする。
		(2)草刈機替え刃は単価1，000円を上限とする。 (2)原則として団体で保管し共有するもので、公益的効果をもたらす場合（例えば防犯パトロールのベスト）で必要と認められたユニホーム（半被・帽子も含む）は、一着単価3，500円を上限とし、申請3ヵ年で合計70，000円までを対象とする。
	食糧費	(1)団体の構成員や団体の活動への参加者に対する食糧費。作業時のお茶も不可。 (2)ただし、次の場合は対象とする。講師や出演者への依頼内容が、午前・午後にわたり、謝礼を払っていないとき、単価 1,500 円以下の食事。
	燃料費	(2)草刈機・チェンソーに使用する混合燃料は、申請時の時価を限度とする。
	印刷製本費	(2)記念誌的な冊子で、高額な印刷物は9割を限度とする。 (2)無料配布するチラシなどは単価を 100 円以内とする。
賄材料費		(1)補助事業を推進するために必要性が十分説明できない経費。 ※会員の口に入る物は不可。
旅費		(1)補助事業を推進するために必要性が十分説明できない経費。 例）慰安的な要素の強い視察研修の旅費
保険料		(1)ボランティア保険、レクリエーション保険等必要最小限の保険以外のもの 例）団体が所有する備品などの保険料
修繕費		(1)補助事業を推進するために必要性が十分説明できない経費。 例）・集会施設や集会施設備品、ごみステーション、防犯灯などの自治区運営に関わるものの修繕・神社仏閣など宗教に関わるものの修繕 (1)特別な知識、技術を必要としない丸投げの修繕費。
委託料		(1)補助事業を推進するために必要性が十分説明できない経費。
使用料・賃借料		(1)補助事業を推進するために必要性が十分説明できない経費 例）・慰安的要素の強い視察研修のためのバス費用 ・環境整備活動で使用する草刈機・チェンソーなどの賃借料 (1)会員所有の自家用車（乗用車、軽トラック等）の使用料、借用料。 (2)トラクター、脱穀機については1回 5,000 円の使用料を上限とする。ユンボについては大きさにより適切な使用料を設定する。目安として 1 回 30,000 円以内。
工事請負費		(1)特別な知識、技術を必要としない丸投げの工事請負費。
原材料費		(1)地域資源を有効活用できる経費 例）地元に山があり、構成員の中にも山の所有者がいて、荒れた山の場合、安易にベンチの材料として木材を申請するのでなく、環境整備も含めて地元で調達してほしい。
備品購入費		(1)補助事業を推進するために必要性が十分説明できない経費 例）枝打ちロボット (1)団体として、長期的に使用すると認められない備品 (2)①市民団体が自治区関連の団体（自治区、自治会、コミュニティ会議）に相当し、自治区行事に使用する備品を申請する場合＝備品の補助率は 50%以内 ②①に該当しない団体の場合＝備品の補助率は 70%以内 ※但し、①②とも補助合計金額は 20 万円を上限とする。
負担金		(2)事業実施に必要な研修会等の参加負担金は原則1名分を補助。ただし、参加負担金の中に昼食代などの食料費が含まれている場合、それを除く。
補助金及び交付金		(1)補助金及び交付金はいかなる理由でも認めません。

助成内容（助成金額の決定）

地域会議が事業内容に応じて補助条件、補助率などを審査し、市長が補助金額を決定します。地域会議ごとの総予算は 500 万円です。また、申請金額からの減額や条件を付して交付決定を行う場合があります。

足助地区の評価方法

（1）補助事業の評価は、「事業計画の妥当性」「社会的公益性・地域貢献性」「発展性・将来性」の3項目について、各5段階評価の点数制とします。
ただし、「社会的公益性・地域貢献性」「発展性・将来性」については点数を 2 倍にします。（25点満点）

（2）補助事業の点数は、各委員の合計値を集計した平均点。ただし、地域会議委員が申請団体や申請事業の関係者である場合は、その委員の得点は算入しません。

（3）補助事業として採択する基準は平均点13点以上。平均点13点未満の場合は不採択とします。

（4）補助率は平均点数により異なります。
・平均点が 22 点以上 25 点以下の場合、補助対象経費の 100%以内を補助します。
・平均点が 17 点以上 22 点未満の場合、補助対象経費の 90%以内を補助します。
・平均点が 13 点以上 17 点未満の場合、補助対象経費の 80%以内を補助します。

（5）申請者全団体の補助対象総額が予算額（500万円）を上回る場合
平均点の高い団体から順位付けし交付決定とするため、予算額を上回った時点で補助対象団体であっても、交付金額が減額、又は交付できない場合があります。

そのほか

補助事業の取組について、発表会などを予定しています。また、補助金交付にあたり、発表会などに参加することも補助条件となります。

足助地区の場合

シャングリラ足助2012にて、「事例発表」「パネル展示発表」等を条件として予定しています。

申請書類は足助支所に用意してあります。
また豊田市ホームページからも取り出すことができます。

ご相談・お問合せ先　足助支所　地域振興担当　62－0601

「わくわく事業」のすすめかた

1

このページは、会場の皆さんの声を
お聞きするときに使います。